

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	比較文化論B		
科目基礎情報							
科目番号	0061	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	都市環境デザイン工学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	プリントで配布 (資料やタスクシートのファイリングが必要)、読書案内等は随時授業中に行なう						
担当教員	保坂 直之						
到達目標							
1. 他者への関心を持ちオープンである 2. 他者の信念や行動に対して直ちに判断を下さず、好奇心をもって理解しようとする 3. 他者の視点から物事を分析・理解しようとする 4. 自らの所属集団・他者の所属集団の文化背景の知識がある 5. 文化背景が及ぼす影響について十分な知識がある 6. 異文化理解に必要な態度・知識を踏まえて意見を語り行動することができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目A: 態度1	他者への関心をもちオープンである	他者への関心を持ちオープンであるとする	他者への関心がなくオープンではない				
評価項目A: 態度2	他者の信念や行動に対して直ちに判断を下さず、好奇心をもって理解しようとする	他者の信念や行動に対して直ちに判断を下さない	他者の信念や行動を誤解して判断しがちである				
評価項目A: 態度3	他者の視点から物事を分析・理解しようとする	他者の視点を理解しようとする	他者の視点がつかみきれない				
評価項目B: 知識1	自らの所属集団・他者の所属集団の文化背景の知識がある	自らの所属集団・他者の所属集団の文化背景の知識がある程度ある	自らの所属集団・他者の所属集団の文化背景の知識が不足している				
評価項目B: 知識2	文化背景が及ぼす影響について知識がある	文化背景が及ぼす影響について知識がある程度ある	文化背景が及ぼす影響について知識が不足している				
評価項目: 発言・行動	A(態度)、B(知識)を踏まえて意見を語り行動することができる	A(態度)、B(知識)を踏まえて意見を語り行動することができる程度である	自分の意見が語れない、行動できない				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本と主に欧州の文化を比較しながら、異文化を理解するための方法・他者に自国文化を理解してもらおう感覚を養う。特に他者と分り合えるための態度と知識に焦点をあてて、自国のことについても十分に説明する練習をしたい。「文化背景」を掘り資料として映画作品を使い、タスクノートに埋めてディスカッションをしていく。取り上げる作品の主題に沿って、以下のキーワードの中のいくつかをディスカッションでのライトモチーフにする: Wende (壁の崩壊・時代の激変)、グローバリズム、デモクラシー、人権、sozial (社会的公正または公共性)、パブル世代・ロスジェネ世代・ゆとり世代、など。						
授業の進め方・方法	知識習得学習に偏らないように、「ステレオタイプ」「ハイコンテクスト社会」などのキーワードを体感するためのコミュニケーション練習を混ぜながら授業を進めていく。さまざまなアクティビティによって緊張せずに行動するスキルも身につけてほしい。						
注意点	読書などの自習も重要で、240分/1Wの自学自習が必要である。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	はじめに: 構造問題 (1)	構造問題という考え方を理解できる			
		2週	構造問題 (2)	他者の事情を踏まえて、自分の意見を言える			
		3週	GOOD BYE LENIN (1)	Wende (壁崩壊) 前後の欧州の文化背景を知る			
		4週	GOOD BYE LENIN (2)	Wende (壁崩壊) 前後の欧州の文化背景を理解する			
		5週	GOOD BYE LENIN (3)	Wende (壁崩壊) 前後の欧州の文化背景の知識を踏まえて意見が言える			
		6週	ステレオタイプとハイコンテクスト	ステレオタイプ・ハイコンテクストなどの基本知識をもとに正しく行動できる			
		7週	DAS LEBEN DER ANDEREN (1)	「旧東…」の文化背景と実際を知る			
		8週	DAS LEBEN DER ANDEREN (2)	「旧東…」の文化背景と実際を理解する			
	4thQ	9週	DAS LEBEN DER ANDEREN (3)	偏見から離れて、デモクラシー、dictatorshipなどについて議論できる			
		10週	表情・アイコンタクト・タッチング・距離	身体にしみついた文化背景を自覚しながら、自由に行動できる			
		11週	リバーズ・エッジ (1)	現代日本人のメンタリティを支える文化背景を知る			
		12週	リバーズ・エッジ (2)	現代日本人のメンタリティを支える文化背景を理解する			
		13週	リバーズ・エッジ (3)	パブル・ロスジェネ・ゆとりなどの用語を正しく使って日本の「今」を説明できる			
		14週	まとめ	タスクシートを整理して試験の準備をする			
		15週	定期試験、答案返却	第14週までの項目の達成度を確認する			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	タスクシート	その他	合計

総合評価割合	50	14	0	0	36	0	100
基礎的能力	25	7	0	(-10)	18	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	25	7	0	(-10)	18	0	50